

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	(仮称)ダイレックス新潟空港通り店	
建設地	新潟県新潟市東区浜谷町2丁目	
用途地域	準工業地域、法22条指定区域	
建物用途	物販店	
竣工年	2022年2月 竣工	
敷地面積	5,881.29 m ²	
建築面積	2,326.71 m ²	
延床面積	2,219.27 m ²	
階数	地上1F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2022年1月24日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B-	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{32.0}{42.1} = 0.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	対策	スコア	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.0		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	1.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	4.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	4.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	4.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	1.7		節水	LR2.1.1	1.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.0		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	1.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

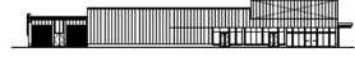
不特定多数の人が訪れるため建築物移動等円滑化基準に対応し、安全にも配慮した親しみのある施設となるように計画しました。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイレックス新潟空港通り店	階数	地上1F
建設地	新潟県新潟市東区浜谷町2丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条指定区域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 竣工	評価の実施日	2022年1月24日
敷地面積	5,881 m ²	作成者	コスモ建設(株)
建築面積	2,327 m ²	確認日	2022年1月24日
延床面積	2,219 m ²	確認者	コスモ建設(株)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記+②以外の 53%
④上記+ 53%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
総合 不特定多数の人が訪れるため建築物移動等円滑化基準に対応し、安全にも配慮した親しみのある施設となるように計画しました。		
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の建築材料を積極的に使用することでシックハウスに配慮しました。	Q2 サービス性能 売り場部分の天井高さに余裕を持たせることで開放感を創出し、ゆとりのある空間を確保しました。また、耐久性・メンテナンス性に優れた材料の選定に配慮しました。	Q3 室外環境 (敷地内) 建物を平屋建てとし、周囲に圧迫感のない計画としました。
LR1 エネルギー 外壁と屋根の断熱性能を向上させ、建物外皮の熱負荷抑制に配慮しました。	LR2 資源・マテリアル 発泡剤を用いた断熱材を使用しておりません。	LR3 敷地外環境 地下浸透対策により雨水流出抑制の実施。十分な量の駐車スペースと荷捌き用車両の駐車スペースを確保しました。また、駐車場への導入路を複数確保し周辺道路の渋滞緩和に配慮しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される